

令和 7 年 第 3 回大河原町教育委員会定例会会議録

- 1 招集日時 令和 7 年 3 月 24 日（月） 午前 10 時 00 分
- 2 招集場所 大河原町役場 2 階 第 1 会議室
- 3 出席委員 一盃森広志委員、丹羽宜博委員、林恵美子委員、片倉亜寿香委員、
鈴木洋教育長
- 4 説明のため出席した者
櫻田尚 教育総務課長、齋修 生涯学習課長、小野寺淳一 学校教育専門監
- 5 開 会 午前 10 時 00 分
- 6 令和 7 年第 2 回教育委員会定例会会議録の承認について
鈴木教育長 | （委員全員に諮って）承認する。
一盃森委員、丹羽委員 署名。

7 教育長報告

（1）一般事務報告

報告第 2 号 令和 7 年第 1 回大河原町議会定例会（3 月会議）の結果について

教育総務課長、生涯学習課長より説明。

一盃森委員	給食無償化で、「柴田町や村田町から通っている子供を除き」と新聞では表現された。約 60 名ほど。町からすればその通りだと思いますが、新聞を見て、ちょっと違和感がありました。 同じ学校に通い、同じ給食を食べてるのに、なぜ線を引かなければならないのか。今後善処してほしい。 子供同士で線引きされ、区別されてるって感じを持たれないようにするような工夫ってないかなと思いました。
櫻田教育総務課長	町外から区域外通学している児童生徒に対する措置というのは、話にはありましたが、先行事例では、ほとんどのところがやはり区域外からもらっているということもありましたし、また、財政面から見ても仮に中学生 60 名分をこちらの方で負担となりますと、それだけで 400 万近くのお金もかかってしまうということでこれはちょっとできないだろうという結論に至ったものでございます。

櫻田教育総務課長	しかし、給食の賄い材料値上げについては、10年以上前から値段を据え置いておまして、その分の費用は、区域外通学者分も含め町で負担しております。
一 盃 森 委 員	ぜひ、区別感ってというか、子供が感じたりすることのないような配慮が必要だと思いますのでよろしくお願いします。

報告第3号 県費負担教職員の異動状況について

鈴木教育長より説明。

(2) 専決事務報告

報告第3号 専決処分の報告について

(令和6年度大河原町一般会計補正予算(第10号))

(令和7年度大河原町一般会計予算)

教育総務課長、生涯学習課長より説明。

8 議 事

議案第3号 学力向上指導のための任期付教職員の任命について

鈴木教育長 | (委員全員に諮って) 可決する。

議案第4号 在学青少年教育相談員の任命について

鈴木教育長 | (委員全員に諮って) 可決する。

議案第5号 おおがわら子どもの心のケアハウス職員の任命について

鈴木教育長 | (委員全員に諮って) 可決する。

議案第6号 特別支援教育支援員の任命について

鈴木教育長 | (委員全員に諮って) 可決する。

議案第7号 学校図書司書補助員の任命について

鈴木教育長 | (委員全員に諮って) 可決する。

議案第8号 スクールサポートスタッフの任命について

鈴木教育長 | (委員全員に諮って) 可決する。

議案第9号 部活動指導員の任命について

鈴木教育長 | (委員全員に諮って) 可決する。

議案第10号 社会教育指導員の任命について

鈴木教育長 | (委員全員に諮って) 可決する。

議案第11号 部活動地域移行コーディネーターの任命について

鈴木教育長 | (委員全員に諮って) 可決する。

議案第12号 学校開放事務補助員の任命について

鈴木教育長 | (委員全員に諮って) 可決する。

議案第 13 号 生涯学習課事務補助会計年度職員の任命について

鈴木教育長 | (委員全員に諮って) 可決する。

議案第 14 号 学校給食費管理事務補助員の任命について

鈴木教育長 | (委員全員に諮って) 可決する。

議案第 15 号 令和 7 年度学校給食実施計画について

鈴木教育長 | (委員全員に諮って) 可決する。

議案第 16 号 大河原町駅前図書館司書の任命について

鈴木教育長 | (委員全員に諮って) 可決する。

9 その他

(1) 教育長報告

1 惜 ご退職 杉山義隆校長先生

(1) 大河原小学校長としての記録

(2) 「祝い唄と踊り唄による幻想曲」(杉山義隆)

(3) 「少人数の演奏でも全員が楽しく」(朝日新聞)

誠実で児童・保護者からの信頼が厚く、特に音楽教育については類をみない卓越した力をお持ちの先生でありました。4 月からは第二の人生のスタートとなりますが、今後とも私達にご指導を賜りますようお願いいたします。

2 シンプル

(1) 「大谷翔平のなぜには物語がある」(BS テレ東)

(2) むずかしくして深く考えさせることの嘘(佐々木昭弘)

大谷翔平の番組の中で、「大谷翔平はなぜ節目で特別な力を発揮することができたのか?」というところを追求するのがあった。ドジャースの監督は、特別な力を発揮できた理由を、「シンプル」という言葉を 3 度使って説明している。

もう一つの例は、筑波大学附属小学校の佐々木校長の話。なんでもかんでもやりたいことを詰め込んだ結果、目標が達成できない授業となった。先輩教師からも「提案授業はやりたいことの 7 割でいい。3 割削ってちょうどいい」と言われ、骨太の理論はいつもシンプルであるという大原則を忘れていたことに気づかされたと述べている。

3 IBAリーディング・リスニングテスト

この IBA 英語テストは、中学 2 年生が対象であり、客観的なデータを示してくれる。目標とすべきは『英検 3 級合格』の割合の向上である。ここ 4 年間の状況では、令和 3 年度の 2 年生(現在の高校 2 年生)の英語力が高かったと言える。

現在の中学 2 年生は、令和 3 年度に次ぐレベル。現在の中学 3 年生は、下位層の割合が多い。どこまでレベルアップできたか、高校入試の結果で検証する必要がある。

4 「部活動改革に伴う学習指導要領解説の一部改訂について」

学習指導要領の一部改定。学校と地域が連携しろということである。部活動地域移行は、進んでいる地域と全く進んでない地域が二極化して、しかも進んでない地域の方が圧倒的に多い。そういう状況で、国はこれからどうするのかということで、悩んでいると思う。

大河原はちょっと進んでる方ですが、これから本当に地域の人たちに受け皿となってもらえるような体制作りっていうのを、何年かかけてやっていかなければならない。

5 「自由進度学習」はすぐにはできない（森本隆史）

筑波大学附属小の森本先生の話。自由進度学習とは、公文のようにプリントをどんどん与えたり、A Iドリルを使って学習を進めることではない、と断言する。

自由進度学習を実のあるものにするためには、教師は教科書を超える教材を開発する必要がある。だから「すぐにはできない。」

6 子どもの強くてしなやかな対話力を育てる（北尾倫彦）

対話力の重視ということで、対話的学びとはちょっと違いますが、対話力ということで主張されている。やはり、これからの世の中を生きていくためには、自分の考えを主張するだけじゃなくて、相手の立場を理解するとか、そういうようなことが大事だということである。

7 『学校に行けない子どもの気持ちと向き合う本』（矢部裕貴）

子どもとどう向き合うべきかを書いた本。キーセンテンスをいくつか紹介。

「お母さんが怒っていると子どもはふざける。お母さんが苦しんでいるのを見て、子どもは開放してあげたいと思う。」「不登校は心の休息期間。個人によって違い、1日すれば回復する子もいれば、5年、10年かかる子もいる。」「学校に行きたくない理由が何なのかというのは正直どうでもよくて、大事なのは、子どもが言った気持ちや思いをちゃんと受け取ってあげること。」

8 「これからの時代の教育を考える」（石井順治）

I C Tの社会なんだけれども、協働的な学びがあって初めて、個別最適な学びがあるんだというような主張である。

9 令和7年度新規事業

教育総務課、生涯学習課の新規事業について説明。

10 その他

各種事業の様子等について資料により説明。

丹 羽 委 員

小学校の英単語。また、増えましたね。うち 4 歳くらいの孫がいるんですけど、上手に日本語話しますよね。あの子たちの知っている日本語の数って大したことないんですよね。ところが、会話ができるんですよね。

だから、700、800 ってあるかもしれないけれども、その中で普段使いの英語が話せるようなものを覚える。そういうのがあっても面白いかもしれないね。子供たちはね本当に身振り手振りもあるけれども、単語を上手に使ってしゃべる。だからそういうのはあっていいんじゃないかという感じはする。

シンプルの話。シンプルっていうのは、とてもいいことですけど、やっぱり深いことは深く学ばなきゃならないこともあるが、子供たちが前向きに楽しくやるというようなことは指導の仕方なんでしょうね。難しくする必要はないと思いますね。

一 盃 森 委 員

シンプルの話。授業作りで私もある時期、研究授業だとか、それから指定校の授業だとかの時は、すごい資料は作りますよね。そういうふうな時期もあったんですよ。ところが、授業に至るまでに労力から何から、もう使い果たしてしまう。ある時期、村田の高橋先生なんかと一緒にやってた頃なんですけど、指導案は 1 枚にしないかという話。それで指導主事訪問の指導案を出すことにしようとなった。そうすると、自分で精選していく。だからそういうふうなことなんかもいろいろ先生方も試しながらやって、より良いものにしていけばいいんだろなっていうふうに思いました。

部活動地域移行の話。国の実証事業が 7 年度で終わる。工程表だと、来年から前期 3 年、それで評価をして、後期 3 年で 13 年までかけてやるよっていうふうなこと言ってるわけですから、それを踏まえながら、わが町でも進んでいくんでしょうねって思っていましたけれども、その中で、一つはやっぱり土日の休日地域クラブと言っている部分については、学校教育からは離れていくのかなと思う。方向としてはね。

それから、新しい価値の創造って言ったときに、子供たちがより多くの体験ができるようにっていうふうなことで、学校教育なんか普段の平日の部活動でもあれとあれをやってみたいっていう子が出てくるかなっていうふうに思ったりしててね。それを学校の中で許容できるのか、どうなのかっていうことも、ずっとこれから考えていかなきゃいけない部分かなというふうに思ってます。

これまでだと 1 人の子は一つの部に所属して、その顧問の指導で部活動をやってくっていうことだったんだけど、複数のものを認めて、経験体験してみたいというふうなことを共有していくってなったときに、新たなやっぱり課題っていうのは出てくるかなっていうふうに思いました。

一 盃 森 委 員

そういうふうなことが地域のそのクラブとの兼ね合いの中でうまく移行していかなければいいのかなというふうに思って読ませていただきました。

学校に行けない子どもの気持ち。すごくよく分かる。ちっちゃい頃ね、嘘ばかりつくってという時期やっぱあるんですよ。親との信頼関係ができてないからなんだというふうに言われてるわけですけど、改めて思うんですけど自分自身もやっぱそういうことがあったなと思って。親に気づいてほしいっていうこともさることながら、嘘をついちゃったって自分自身がすごく傷つくんですよ。今でも覚えている。

我が子がいろんなことで学校行けなくなる期間が長くなったり、親御さんの負担っていうのは、なかなか大変だろうなというふうに思う。やっぱこういうふうな形で、いろいろ事例っていうかね、対応の仕方だとか考え方だとか、接し方だとかっていうふうなことを学ぶ一つの機会に非常にありがたいなというふうに思って、だから教育長さんから各学校にというふうなことなんかも知らされているわけですから、先生方もぜひね、そういうふうなことも踏まえて、子供たちに接していただければいいかなというふうに思って読ませていただきました。

石井先生の話。なるほどなって思うんですよ。やっぱシンプルなんですよ。やっぱ学校教育は昔ながらのね、手作りのっていう、それを大事にしていきましょうよっていうことだと思いますよね。

丹 羽 委 員

子どもの嘘の話がでしたが、それをどのように受け止めるかってのは先生の力量ですよ。もちろん親も大切なんですけど、話の中で適応障害ではなく、自閉症スペクトラムということが分かった時点で、親も教師も安心して対応することができたということが書いてあります。

つまりなぜ、嘘をつく必要があったのか、あるいは物を壊すことが必要だったのかっていうことをですね、理解できたとき初めてその対応の仕方ということがわかってくるわけですね。

だからその原因を探るってことはとても大事なことなんですけど、子供の心をできるだけ傷つけないような、そういう対応の仕方が必要なんだろうなって思いました。

林 委 員

学校って大前提として、学校は子供の社会性をよりよく育む場なんだっていうところを感じる。とても大切な場所だっていうことを保護者にわかってもらう、不登校の保護者にもわかってもらいたいっていうふうな気持ちがすごく強かった。

学校の友達と一緒に過ごすっていうことが、どれだけその子供を成長させ

林 委 員

るのかっていうのは改めて考えて、そういう子が子供たちと一緒に場での経験の中で、卒業式に立派に保護者に向かって、先生方に向かって1人で声を出して卒業していく姿を見たときに、学校ってすごいなって思いました。学校は子供たちにそういう力をつけさせられるととてもいい場所なんだと。だから学校に来てくださいというふうに保護者に伝えていかなきゃなんないなというふうに思う。

子供って、家庭で守られてるところから小学校・中学校っていろんなストレスもありながらも、社会を広げていくんですよね。徐々に徐々に広がっていく場所なんですよ。

だから親として、そういう事がすごく大事で、そういう勉強してくる場所、社会性を育てていく場所なんだよって誘ってほしいですよ。保護者がみんな思ってくれたら、不登校は無くなると思っている。そのような場所に学校もならなければならない。先生方もそういう場所にならなきゃならない、居心地のいい場所なんだよって、いつ来ても大丈夫、いつ来ても受け入れて、みんなと一緒に頑張れるよっていうふうに絶やさず関わってほしい。絶やさずその子にアプローチして欲しいなっていうふうな事を強く思いました。

年度初めっていうのは、子供たちがその進級とか、入学とかを迎えて本当に気持ち新たに、また頑張ろうと思うそのチャンスなので、この機会を絶対に逃がさないで、協同的な学びを教科の授業だけでなくて休み時間の協同的な遊び、あるいは中学校だったら部活動とか、みんなと一緒に頑張ると、こんなに楽しいんだっていうことを教えていけるような場に学校もしていかなきゃならない。そのように目指してほしいなと思う。

一方で、やっぱり回り道をしても、その子の気持ちや思いを受けとめてあげられる親がいたり、先生がいたり、あとは町教委の方がいたりソーシャルワーカーさんがいたりカウンセラーさんがいたりそれから子供家庭課の方、福祉課の方、そういう方々がみんな一緒になって、関わってくれた子は、次のステージに向かっていると思うんですよ。私の知っている限り、そういうふうな子供たちは次に希望を持って歩み出しています。

1人1人のことをしっかり見守って、関わり続けていくことっていうのが本当に大切で、その子の将来に導いてあげられるかなというふうに思いました。

片 倉 委 員

この前、子供の授業参観があったんですね。それで社会の時間だったんですけども1人1人が国を調べて、全員発表したんですね。

そのときに、すごい元気に発表する子だったり、やりたくなさそうにする子だったり、恥ずかしそうにする子とか、それぞれの子供たちがみんな頑張っていて応援していて、そういう姿を見て、発表する機会をいろんな各教科で

もっと増えると子どもの自信じゃないですけど、やりたくなかった子も周りに応援されることによって励みになって、やりたくなることもちょっとずつ増えるんじゃないかなと思っています。この資料のところで、対話力のところを読んでいて、自分の考えや周りの意見を聞いて対話をする力が養えるんじゃないかなっていうのを、これを見ていて、対応するために事前に準備や周りの考えや意見を参考にして、自分の考えを検討したり修正することで問題を解決する力も育つだろうし、学校でそんな機会がどんどん増えると、発表するプレゼンする回数を重ねると、準備の時間のかけ方や心にも余裕ができて、小さいうちから回数を増やすと、だんだん学年が上がっていくにつれて、社会に出ていくときにすごく自信に繋がるんじゃないかなと思って見ていました。

うちの子が発表する機会がちょっとずつ増えてって初めは、すごい準備時間がかかったんですよ。それが1年経つと、準備にかける時間が短くなって大体こうすればいいかなっていう対応が増えていくのを見て、回数ってすごいなと思って、こういう機会がどんどん増えると社会に出ていくと発表する機会もあるし、自信がついていいんじゃないかなと思って、この対話の力を育てるっていうのを読んでそう思いました。

あともう一つ聞いたかったんですが、「英検」は全員が受けるんですか。

小野寺専門監

英検は全員受けなきゃならないことはなくて、I B Aテストっていうのがあってこれは中学校2年生が全員受けます。英検の受けるレベルについては、本人に選んでもらっております。

(2) 各課長報告

教育総務課長、生涯学習課長

令和7年度行事予定について説明。

10 次回教育委員会の開催日程について

鈴木教育長 | 次回の定例教育委員会は令和7年4月24日(木)午後2時から開催する。

11 閉会宣言 午前11時50分

令和7年4月24日

署名委員

署名委員